

天顛女

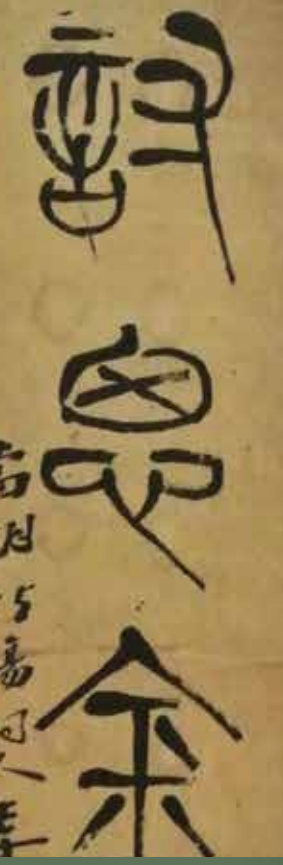


天津文化年第三弾

天津の母なる川“海河”の子

弘一大師の生涯展

家南弟家去婿却
扶伴不妻・田依婿一回填
昔油中子道斜陽風德
湘麓山重堂自在石家道
上見是非香氣試猜詳
為れ傾滅舟ね遊・生拏
書在公官自是日先月



湘麓山重堂自在石家道
上見是非香氣試猜詳
為れ傾滅舟ね遊・生拏
書在公官自是日先月
後病有遂知剩數朝
書上公官自是日先月

2019.
5.28(火) ~ 6.7(金) 10:30 ~ 17:30
初日は 15:00 ~ / 最終日は 13時まで
土日休み / 入場無料

【開幕式】5月28日(火) 15:00 ~
定員：80名(先着順) HP から要申し込み
※その他関連イベントは裏面をご覧ください

【主催】
天津市文化と旅游局 中国文化センター
【運営】李叔同故居記念館
【後援】
中華人民共和国駐日本国大使館
公益社団法人 日本中国友好協会
日中友好議員連盟
一般社団法人 日中協会
公益財団法人 日中友好会館
一般社団法人 東京華僑総会
【協賛】青島ビール

李叔同、のちの「弘一大師」は1880年に天津で生まれた中国近代文化における偉大な先駆者の一人です。裕福な家庭の愛情深い両親の元で多岐にわたる分野の教育や薫陶を受けて少年時代を過ごし、同時に周囲の名士たちの新思潮に触れ、進歩的な考えにも影響を受けました。

25歳の時に日本留学し東京美術学校の西洋学科に入学。同時に音楽や文学など幅広い分野の勉学に励み、帰国後その才能を大きく開花させただけでなく、中国のさまざまな分野の文化向上に貢献しました。

38歳で出家得度し法号を「弘一」とし、律宗（仏教の一宗派）を一心不乱に修習し、仏法の宣揚に取り組み、その仏教学に対する造詣の深さから中日両国に大きな影響を与えました。

本展では、写真約70枚、文献資料、書画作品、泥人形など約30点の展示品を通して、李叔同が残した精神的な財産に迫ります。天津での生活の様子、日本留学の過程における思想の変化、仏門に入り厳格な戒律で自らを律しながらも人々に慈愛を与え続けた姿勢。その起伏に富んだ人生がどのように中日両国に影響を与えたかをご覧ください。



李叔同が文人・文豪者たちから芸術を学んでいる場面の泥人形



李叔同が徐耀廷（李家の財務担当であり、李叔同が書画篆刻など芸術分野の指導を仰いだ人物）に宛てた手紙



日本留学時の李叔同



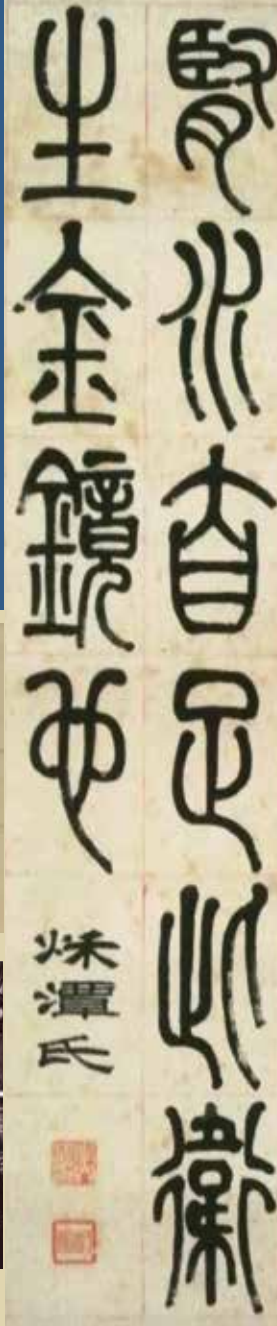
兄の李文熙と李叔同が将棋をする様子



李叔同が描いた沼津の風景画



上海で撮影した22歳の李叔同



【講演会】5月29日（水）15：00～16：30 「私の祖父 李叔同 弘一大師」

講師：李莉娟（天津市李叔同弘一大師研究会副会長・李叔同の孫娘）

私の祖父である李叔同（弘一大師）は、学名を文涛、字を叔同あさなといいます。そのほかの別名も多く持っていました。出家後、法名を演音、号は弘一として、律学を研究し「四分律比丘戒相表記」などを編集します。これにより800年にわたって中断していた南山律宗が彼の意思を受け継いで再び活気づいていきました。仏門からは「第11代律宗の祖」と仰がれるようになります。

没後、中国仏教協会が“弘一大師生誕百周年記念 金石篆刻・書道展”を開催。これが1980年のことです。その後、新聞や雑誌などで立て続けに弘一大師の文章が掲載されます。父は様々な李叔同の記憶を思い起こしたと話しておりました。今回は李叔同の次男の娘がその祖父の功績について語ります。



開幕式・講演会の申し込み

<https://www.ccctok.com/event>

上記中国文化センターのHPよりお申し込み下さい

【開幕式】5/28（火）15：00～ 定員：80名（先着順）

【講演会】5/29（水）15：00～ 定員：80名（先着順）



【日比谷線】
「神谷町駅」4a番出口より徒歩5分
【銀座線】
「虎ノ門駅」2番出口より徒歩7分



中国文化センター CHINA CULTURAL CENTER

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F

Tel: 03-6402-8168 Fax: 03-6402-8169 E-Mail: info@ccctok.com